

「若者による地域づくりのカタチ～若者のチカラを地域のチカラに～」の概要（案）

1 審議テーマの設定

平成 28 年3月に改定した「かながわ青少年育成・支援指針」を踏まえ、青少年の成長と自立を支援する新たな施策を展開する上で、当事者である若者が主体となって大人とパートナーシップを組みながら地域づくりを進めることが重要であるとの視点に立ち、調査審議を行うこととした。

2 若者と地域の現状と背景

1 若者の「チカラ」について

- ・これまで、若者には大人や社会が必要と考える能力を身につけることが期待されてきた。
- ・若者の「チカラ」は、生活する中で自然と身につく、具体的な状況や関係性の中で発揮される「チカラ」と捉える必要がある。こうした「チカラ」は、若者の存在自体が大人や社会に与える「影響力」と表現できる。

2 大人と若者の関係について

- ・若者が多様な年代の大人に出会うことが少なくなり、大人と若者の信頼の絆は育まれにくくなっている。
- ・若者が弱さを出せない、弱さを共有できないことが、大人と若者との信頼と寛容の関係をつくる上で障壁となっている。

3 若者の参画について

- ・大人と若者の関係性については、「青少年育成」、「青少年指導」という言葉で、大人が子どもや若者の成長発達に向けて育成指導するという考え方であった。

4 地域の状況について

- ・町内会、青年団などは、地域を支える重要な役割を果たしてきたが、地域を面的なイメージで捉え、町内会などの伝統的な地域の組織が、網羅的、組織的に地域を動かすのは難しくなっている。

3 「若者」と「地域の関わり」を考える上で重要な視点

1 若者と大人がつながり、ともに場をつくる

- (1) 人と人が出会う場所
人のつながりの大切さ／多世代の人が居たいように過ごせる空間／若者が大人に出会い、話を聴く場、チャレンジできる場
- (2) 大人と若者が互いの弱さを語り、聴く
若者も大人も空間的、精神的な居場所が少ない／失敗も含めて現状のままの若者を受け止める／若者だけでなく、大人も未完成／若者と大人のフラットな関係性／傷つきを話し、対処する方法を身につける
- (3) 多様な世代の交流と対話
世代を超えた者同士の対話／斜めの関係／多世代が混ざる、評価や競争のない場

2 若者と大人がともに経験する

- (1) 若者と大人がともにつくる
新しい社会を創り出す力／若者が本気で力を出す出番や機会／若者と多世代がともに考える／若者も大人も作り手側
- (2) 若者と大人がともに学ぶ
対等な関係性／大人ができないことを自覚する／価値観の違いの共有／大人が若者に教えるという先入観／年齢に関係なく学び続ける

3 若者と大人がともに進む

- 大人が若者の横や斜め後ろにいる役割／大人が若者を応援する姿を見せる／若者を支え、育てていく人の循環

5 今後に向けて～若者が活躍する地域づくりを進めるために～

ポイント1：「地域と地域づくり」～場の創出～

- 地域づくりを進める上では、人と人をつなげ、対等な関係性となる場を構築できる人材が必要である。
- 時間的、空間的にゆとりのある場で、人と顔を合わせることで、いろいろなものを見方を知ることができる。
- 地域に様々な考え方を持つ人たちが交流できる場があることにより、若者が多様な人間関係を築き、物の見方を多元化できる機会となる。
- 今後の地域の捉え方は、様々な場や主体が相互に関わり、多層的な地域となることをイメージすることが大切である。

ポイント2：「人と人をつなげる」～つながりの創出～

- 地域は生活の場であり、人は地域の様々な場(家庭、学校、町内会、子ども会、サークルなど)で人間関係を持ち、生活している。
- 地域では、子ども、若者、大人の各世代が発揮する力を持っており、存在意義がある。世代を超えて、地域の様々な場で、人と人の共感的な関係を育む役割を担う人材が増えていくことが大切である。
- 町内会や子ども会、子ども・若者の育成支援活動などを運営している人たちが、つながり、協力しながら多層的な地域にしていくことが必要である。

ポイント3：「若者と大人が共感しあえる関係を育む」～対等な関係性の構築～

- 地域づくりを進める上では、世代を問わず、一緒に地域をつくることのできる関係性が大事である。そのために、若者も大人も安心して自分らしさを発揮できるよう、対話することが大切である。
- 若者と大人が共感し合える機会を持つことにより、対等な関係性が生まれ、地域づくりを続けることにつながる。

ポイント4：「若者と大人がともに地域をつくる」～相互理解と協働～

- 若者の持つ「チカラ＝社会に与える影響力」を大事にししながら、大人とともに地域づくりを進めることが大切である。
- 若者も大人も互いを理解することが大切である。若者と大人が互いの得意なことを出し合い、苦手な事を補い合いながら、相互にチカラを発揮しあうことが大切である。
- 若者と大人がパートナーシップを持ち、世代にとらわれず一人ひとりが主体的に地域づくりに関わることが求められる。

ポイント5：「場づくりを担う人に求められること」～寛容な場の醸成～

- 場づくりを担う人は、良い、悪いという考え方で場で生じる事を評価せず、ありのまま受け入れることが大切である。これにより、場に集う人が安心して対話でき、共感できる場をつくることのできる。また、集う人が安心できる場となるよう、時間や空間にゆとりを持たせることが必要である。
- 場づくりを担う人は、専門家ではなく、地域で地道に活動している方々である。家庭など普段の生活においても、お互いを評価せず、ありのまま受け止め、共感を大切に作る場をつくることを心がけていくことが大切である。

4 実践検証事業の実施

～若者を中心とした多世代交流の場～

○ 趣旨

地域づくりをめぐる若者の意識や実態を理解し、協議会の議論の検証を行った。

○ 実施内容

「多世代ワークショップ」を実施し、若者を中心とした様々な世代の人が集い、語り合い、共感し合える場をつくる中で、若者が日頃、自分自身や多世代、地域や社会についてどう感じ、考えているのかなどを理解する。

日程：平成 29 年 8 月 20 日

場所：湯河原トリート ご縁の杜(湯河原町土肥)

参加者：若者世代(20代)14人、大人世代(30～60代)20人

反映

行政に期待される役割

- 町内会、子ども会や子ども・若者の育成支援活動などの団体で、場づくりを担う人材に対し、場に集う人々が互いに共感しあえる場とするための心構えなどを学ぶ機会を設ける。

- 民間と行政が協働しながら、地域の様々な場が緩やかにつながり合い、多層的な地域を構成する環境を整える。